

(1) 意識調査の実施概要

① 結婚・出産に関する意識調査

実施目的 実効性の高い少子化対策を実現するため、若い世代の結婚・出産・子育ての希望や、未婚者の結婚や出産への阻害要因等を調査するもの

実施時期 平成27年7月17日～平成27年8月4日

調査方法 郵送配布・郵送回収

調査対象 平成27年4月1日時点で20歳以上49歳以下の市民の皆様の中から、無作為に抽出した1,200件

有効回収数 447件（有効回答率37.3%）

② 社会移動に関する意識調査

※【社会移動調査】と表記。表記していないものは、「結婚・出産に関する意識調査の結果を表す。」

実施目的 転入増加策や転出抑制策につなげるため、「引越しのきっかけ」や「本市を選んだ理由」などを調査するもの

実施時期 平成27年7月17日～平成27年8月31日

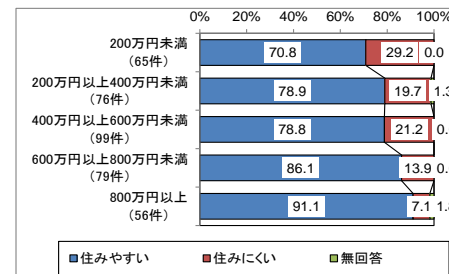
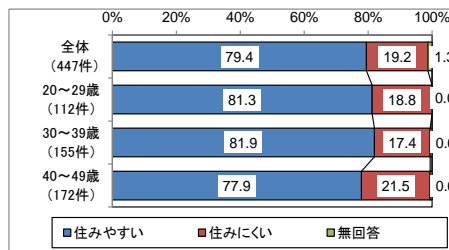
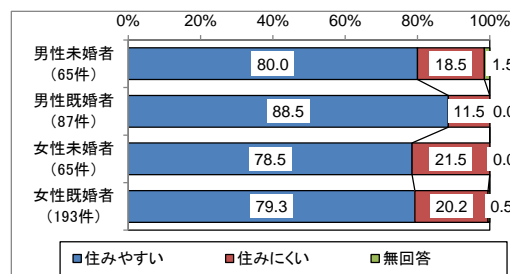
調査方法 窓口直接配布・郵送回収

調査対象 実施期間中に市民課窓口へ転入・転出の手続きに訪れた皆様の中から400件

有効回収数 67件（有効回答率16.8%）

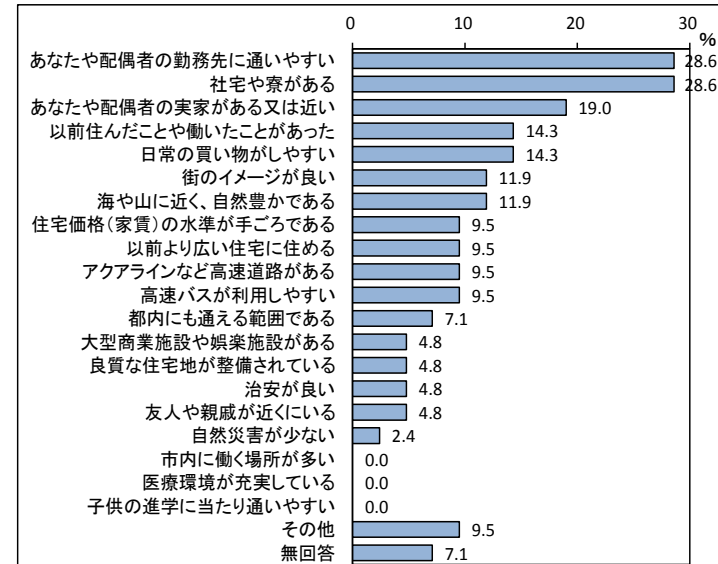
(2) 木更津市の住みやすさ

- 木更津市が「住みやすい」と思う割合は全体の約8割、「住みにくい」と思う割合は全体の約2割となっています。
- 年代の違いでは大きな差は見られず、結婚の有無では特に男性既婚者について「住みやすい」と思う割合が高くなっています。
- 年収が高いほど「住みやすい」と思う割合が高くなっています。



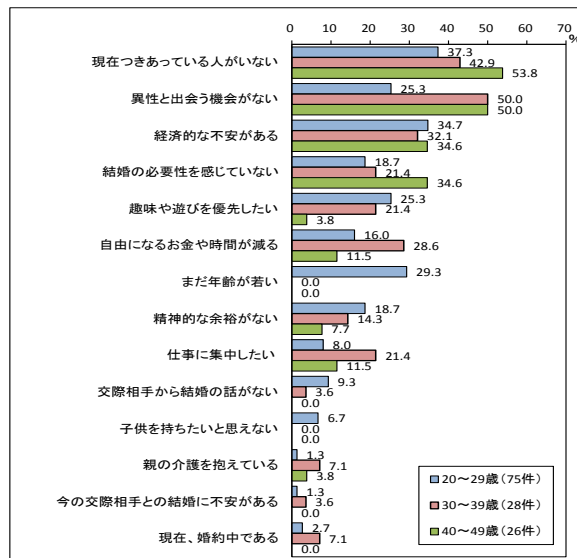
(3) 引っ越し先として木更津市を選んだ理由【社会移動調査】

- 社会移動に関する意識調査のうち転入者に対して、引越し先として木更津市を選んだ理由をみると、勤務先に通いやすいことや、社宅や寮があることなど、勤務先を理由として転入が多くなっています。



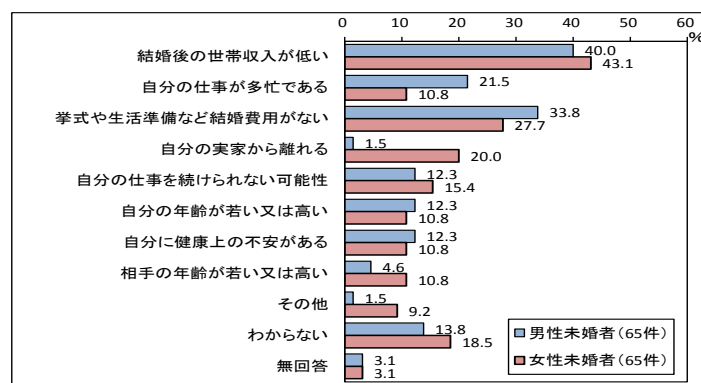
(4) 独身の理由

- 未婚者に独身の理由をたずねたところ、20代では「現在つきあっている人がいない」ことや「経済的な不安がある」こと、30代や40代では「現在つきあっている人がいない」ことや「異性と出会う機会がない」ことが、主な理由に挙げられています。



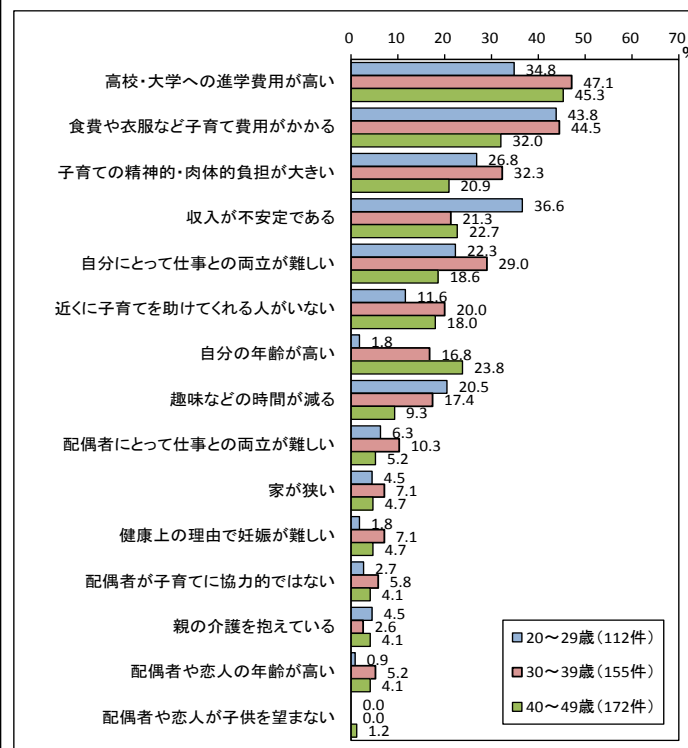
(5) 結婚時の不安・気になること

- 未婚者に結婚時の不安や気になることをたずねたところ、男女ともに、「結婚後の世帯収入が低い」ことが第1位、「挙式や生活準備など結婚費用がない」ことが第2位となっており、経済的不安が大きいことがわかります。
- また、男性は女性と比べて「自分の仕事が多忙である」こと、女性は男性と比べて「自分の実家から離れる」ことも不安要因になりやすい状況があります。



(6) 子供を生み育てることへの不安・問題

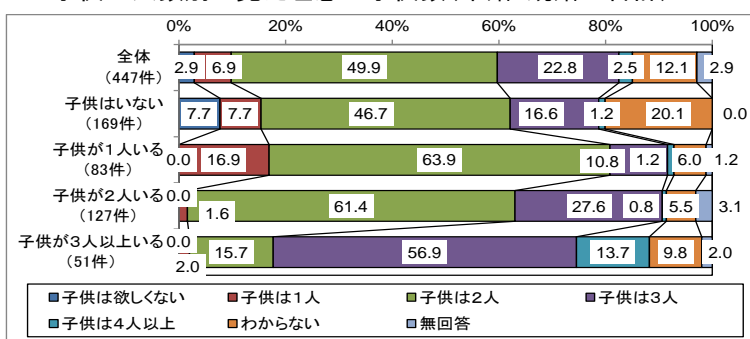
- 子供を生み育てることへの不安・問題を見ると、年代を問わず、「高校・大学への進学費用が高いこと」や「食費や衣服など子育て費用がかかること」が上位2項目となっており、子育てに対する経済的不安が最も大きいことがわかります。また、20代では、「収入が不安である」ことについて、約40%が不安に感じています。
- また、30代を中心に、「子育ての精神的・肉体的負担が大きい」ことや、「自分にとって仕事との両立が難しい」ことについての不安が見られます。



(7) 子供数に対する理想と現実

- 回答者全体では、「子供は2人」欲しいと考える割合が約5割、「子供は3人」欲しいと考える割合が約2割見られます。
- 既婚者については、実際の平均子供数が1.6人であるのに対し、理想の平均子供数は2.3人となっており、その差は0.7人です。

■ 子供の人数別に見た理想の子供数(未婚・既婚の合計)



(8) 子育て面で重視する住環境

- 子供がいる回答者に、子育て面で重視する住環境をたずねたところ、「治安が良い」「医療費補助など公的支援が充実している」「自然豊かな環境である」が全体の上位3項目として挙げられました。20代と40代にとっては「治安が良い」こと、30代にとっては「医療費補助など公的支援が充実している」ことが最も重視されています。
- 子どもが小さい人のうち、3歳未満の子がいる人にとっては「治安が良い」、3歳以上小学校入学前の子がいる人にとっては「子育て世帯が多い」の割合が最も高くなっています。

